

山陽新聞に掲載されました

8月5日（土）山陽新聞(朝刊)

倉敷中央 団結3位

4人の笑顔が北の大地で輝いた。陸上女子400リレーは倉敷中央が46秒23の好タイムで3位に食い込み、「目標にはしていたけど本当に表彰台に立てるなんて」と主将の2走平岡。「絶対的なエースのいないチーム」（森定監督）が6年ぶりの入賞で、「快挙」を達成した。

よどみのないバトンパスで序盤から上位を争った。「しっかりスピードに乗って役割を果たせた」。喜びと、緊張から解放された安堵（あんど）でゴール後に頬を濡らした1走坂本が好発進し、平岡につなぐと3走田辺も硬くなつた準決勝と違い、自分の走りができた。

最後は「後ろを気にせず集中できた」というアンカー木梨が追撃を振り切り、初優勝を飾った2016年の岡山インターハイ以来となる表彰台を守った。2日の予選ではチームベスト（46秒25）を更新し、全体トップの45秒96をマーク。大会を通して好パフォーマンスを発揮したメンバーを支えたのが、控えて回った3年堀内だ。「みんなを笑わせてくれたり、リラックスした雰囲気をつくってくれた。全員で勝ち取った結果」。平岡は団結の証でもある5人全てに手にしたメダルを見やった。（松原悠）

陸上女子400継 最高バトン 6年ぶり入賞



（写真右から）陸上女子400リレーで3位入賞を果たした倉敷中央。1走坂本小春（右）から2走平岡優花にバトンが渡る。3走田辺理枝（右）からバトンを受け、走り出すアンカー木梨光菜。札幌厚別公園競技場

【女子】
▽400リレー ①滝野末来（京都・京都橋）57秒45
石原（岡山・倉敷中央）1分0秒99
▽400リレー ①京都橋（京都）井関、森本、河野、滝野、45秒74
②倉敷中央（岡山）46秒23
③恒石里乃（高知・高知）6秒20
▽円盤投げ ①浜田桃子（福岡・福岡大若葉）40秒89

積極レース

石原(倉敷)7位

女子400障害

全国で自身初のファイナリストとなった。陸上女子400リレーで7位の石原は目標だった入賞をつかみ取り、「3年間やってきたことが実った」と声を弾ませた。

ラスト2台のハードルで失速した前日の予選の反省を踏まえ、この日の

2レースは攻めの姿勢を貫いた。ハイライトは1分0秒34をマークした準決勝だ。「積極的に突っ込んで力を出し切れた」と自己記録（1分1秒20）を1秒近く短縮する力走で入賞を確定させた。

ファイナルでは上位に水をあげられたものの、「全国のレベルの高さを肌で感じられた」と貴重な経験を積んだ。「今大会は決勝に残るのが目標だったけど、次は決勝で勝負したい」。300リレーで秋の鹿兒島国体出場を狙う3年生の視線は一段上に向けられていた。（松原悠）



陸上女子400リレーで7位の石原涼華（中西弘之撮影）



陸上女子100m障害で4位と健闘した木梨光菜

障害4位の木梨は、表彰台と2年生最上位にあと「うれしいけど、もう一歩及ばなかったことを悔しがすが、その表情は明るい。」陸上女子100m障害で4位と健闘した木梨光菜。大舞台を存分に楽しんだ。選手紹介に満面の笑みで応じ、リラクセスしてスタートラインに着いた決勝は号砲への反応が最速。序盤からスピードに乗り、最後までメダルを争った。自身がファイナル進出を逃した2年前の全国中学校大会女王で、3位に入った同学年の谷中（大分雄城台）に0秒08差と成長を示した。

3位表彰台に立った2日前の400mリレーではアンカーで1つ順位を落とし、「心から喜べなかった」と言っが、この日は準決勝で13秒77の自己新もマーク。笑って大会を締めくくった。

今後は鹿児島国体とU18大会出場を目指す。あと0秒03に迫る県高校記録と世代トップ。二つの「宿題」に、秋は満点回答を出す。（松原悠）

木梨(倉敷中央)4位

表彰台あと一歩も成長示す

女子100障害

「うれしいけど、もう一歩及ばなかったことを悔しがすが、その表情は明るい。」陸上女子100m障害で4位と健闘した木梨光菜。大舞台を存分に楽しんだ。選手紹介に満面の笑みで応じ、リラクセスしてスタートラインに着いた決勝は号砲への反応が最速。序盤からスピードに乗り、最後までメダルを争った。自身がファイナル進出を逃した2年前の全国中学校大会女王で、3位に入った同学年の谷中（大分雄城台）に0秒08差と成長を示した。

倉敷中央7位 2種目入賞飾る



陸上女子1600mリレーで7位入賞した倉敷中央の(左から)田辺理桜、石原涼華、岸田美久、平岡優花

女子1600リレー

陸上女子1600mリレーは14年ぶり2度目のファイナルに進んだ倉敷中央が7位。初のリレー2種目入賞を飾り、アンカー平岡は「サポートメンバーを含めたチームの総力を出し切れた」と満足感をにじませた。

タイムで拾われた決勝は1走田辺が7位発進すると、石原、岸田、平岡も粘り強い走りで順位をキープした。経験豊富な森定監督をして一高校生の可能性に改めて驚かされた」と言わしめる入賞ラッシュで、学校対抗の女子トラック部門でも8位に食い込んだ。

中国大会では出番のなかった2年岸田は「楽しんで走れた。来年もこの舞台に戻ってくる」と決意を新たにしている。（松原悠）